

■井上哲次郎 哲学者。日本人初の哲学教授。欧米哲学を日本に紹介し、「形而上」はじめ多くの訳語。新体詩運動も先駆。

いのうえてつじろう

松下村塾・1856＝ 筑前国太宰府で、医家船越俊達の三男に生まれる。

桜田門外変・1860＝ 4歳：この頃、母が急逝。

生麦事件・1862＝ 6歳：漢学者中村徳山に入門して、「大学」「中庸」など素読、

薩摩藩士密航1865＝ 9歳：

父が甘木の医者富田家の養子になったため、富田姓となり甘木に移住するが、

明治維新・1868＝12歳：

戊辰戦争終・1869＝13歳：徳山に学びたいと大宰府に戻り、まもなく徳山が学塾を開くと、塾頭を任される。

その後、博多に出て英語を学び、

廃藩置県・1871＝15歳：長崎の英学塾(広運館)に入学。

明治6年政変 1873＝17歳：

佐賀の乱・1874＝18歳：

初の民間工場1875＝19歳：上京して、東京開成学校予科に入り、

西南戦争・1877＝21歳：新設された東京大学文学部に入学、政治学と哲学を専攻、

大久保暗殺・1878＝22歳：井上鉄英の養子となり、

・・・・・・1880＝24歳：

その娘と結婚。*第一回生として卒業。文部省御用掛になり、「東洋哲学史」を編纂し始める。

明治14年政変1881＝25歳：杉浦重剛らと(東洋学芸雑誌)を発行。実父が死去、以後、井上哲次郎と名乗り、異軒と号する。

新体詩抄・1882＝26歳：東京大学文学部助教授に就任。外山正一らと「新体詩抄」を刊行。

岩倉具視没・1883＝27歳：「倫理新説」。この間、ドイツ留学をはばまれ憤懣やるかたなく、漢詩を書きまくって、

秩父事件・1884＝28歳：「異軒詩抄」を刊行。哲学辞典の先駆「哲学字集」を著し、有志と哲学会を結成後、ドイツに留学、

ハイデルベルク大学、ライプツィヒ大学で学ぶ。

初の対等条約1888＝32歳：「異軒詩抄」中の「孝女白菊詩」に感動した落合直文が「孝女白菊の歌」をつくり、独訳英訳もされる。

帝国憲法発布1889＝33歳：「内地雑居論」、

帝国議会始・1890＝34歳：*帰国後、直ちに帝国大学教授となり、以後、日本哲学界の指導者として君臨。

足尾鉾毒始・1891＝35歳：「内地雑居続論」。「勅語衍義」で教育勅語を注釈し、{大日本教育会雑誌}に「宗教と教育に就いて」を執筆し、キリスト教を反国体的であると攻撃、教育と宗教の衝突論争起る。

大本教・・・・1892＝36歳：

郡司千島探検1893＝37歳：「教育と宗教ノ衝突」。現存する「異軒日記」が始まり、

日清戦争始・1894＝38歳：佐村八郎編纂「井上博士講論集」第巻編。「我世界観の一塵」で現象即實在論を主張、

日清戦争終・1895＝39歳：同第二編。{帝国文学}創刊の発起人。東京学士会会員となる。

八幡製鉄始・1897＝41歳：「釈迦種族論」。大日本協会結成。{日本主義}創刊発起人。{哲学雑誌}に「現象即實在論の要領」。

子規句歌革新1898＝42歳：東京帝大文科大学学長。

Bushidou・1899＝43歳：「異軒論文初集」、

ピアノ国産化・1900＝44歳：「菅公小伝」。以後3年、井上哲次郎編輯{哲学叢書}全10巻。福沢諭吉が編纂させた「修身要領」を批判。文部

省修身教科書調査委員会委員。「日本陽明学派之哲学」、

田中正造直訴1901＝45歳：「異軒論文二集」「武士道」。中江兆民「統一年有半」を批判。「認識と實在との関係」でも現象即實在論。

教科書疑獄・1902＝46歳：秋山悟庵編「異軒博士 倫理的宗教論批評集 第一輯」。「倫理と宗教との関係」「釈迦牟尼伝」。学者代表として、動物虐待防止会の発起人になる。「日本古学派之哲学」、

日露戦争始・1904＝48歳：「日本学生宝鑑」、

日露戦争終・1905＝49歳：*「日本朱子学派之哲学」の三部作が特筆される。

満鉄発足・1906＝50歳：物質文明偏重の気風の矯正を期し{東亜の光}を創刊。提唱し、諸宗教の協力を目的に宗教家協和会結成。

韓国反日暴動1907＝51歳：湯島聖堂で、明治維新によって途絶えていた孔子祭典会が復活した際、孔子が偉大なる常識人である講演、それを聴いた渋沢栄一に感銘を与え、

アヲキ創刊・1908＝52歳：「倫理と教育」、

韓国併合・1910＝54歳：「山鹿素行先生」「教育と修養」、

明治天皇没・1912＝56歳：渋沢、姉崎正治と「帰一協会」設立し、三教会同の趣意を一步進めていることなどから、この年の、「国民道徳概論」などからのみ、一貫して天皇制国家主義のイデオログに終始した学者みなされながら、

21ヶ条要求・1915＝59歳：「哲学と宗教」「人格と修養」「社会と道徳」、

この間、菊池寛のインタビューを受けている。

ベルサイユ条約・1919＝63歳：

原敬首相暗殺1921＝65歳：

関東大震災・1923＝67歳：退官。東洋大学教授。

護憲三派圧勝1924＝68歳：第1回貴族院帝国学士院会員議員に選任され、

治安維持法・1925＝69歳：大東文化学院総長、哲学会会長にもなるが、「我が国体と国民道徳」を刊行すると、

金融恐慌・1927＝71歳：*三種の神器の解釈が、国家主義者から批判され、発禁処分となって、公職を辞任。

共産党事件・1928＝72歳：このことから、単純な国家主義者でなく、荻生徂徠に近い合理性ももっていたと考えられる。

満州事変・1931＝75歳：

五一五事件・1932＝76歳：「明治哲学界の回顧」、

国際連盟脱退1933＝77歳：「神道の特長に就いて」、

帝人疑獄事件1934＝78歳：「日本精神の本質」、

二二六事件・1936＝80歳：「菅原道真」、

日中戦争始・1937＝81歳：三枝博音編纂「井上哲次郎 人生読本：春夏秋冬」、

第二次大戦始1939＝83歳：「東洋文化と支那の将来」、

日米開戦・1941＝85歳：

・・・・・・1942＝86歳：「釈明 教育勅語衍義」「武士道の本質」「戦陣訓本義」、

創価学会検挙1943＝87歳：「懐旧録」。

年金+総武装 1944＝88歳：没した。「異軒日記」87冊が遺された。

インターネットWikipedia, 「没年日本史人物事典」, 平凡社百科事典, 渋沢栄一の話を追加、